

目次

第 1 章	はじめに
-------	------

3

第 1 章

はじめに

お手に取って頂きありがとうございます。

みなさんは $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}^{*1}$ というソフトウェアをご存知でしょうか？ $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ とは $\text{T}_{\text{E}}\text{X}^{*2}$ を元に開発された文書作成ソフトウェアで、編集している画面が出力として得られる Microsoft Word などのソフトウェアとは対照的に $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ の文書はプログラミング言語のような形で命令と文章を記述し、タイプセットと呼ばれるコンパイルを行うことで PDF 形式での出力を得られる、という形の文書作成システムです。

このような形式は一見面倒に思えますが、自動で段落や目次の生成を行えたり、強力な図形描画機能を備えている点から、レポートはもちろん論文の執筆で威力を発揮します。また美しい文書を作成できることでも評価が高く、 $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ を用いた書籍も多数出版されています。もちろん本書も $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ で作成されています。

本書では、 $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ の基本的機能から、レポート執筆に便利なグラフの生成や回路図の生成が可能になる拡張機能の使用法の解説、またソースファイルの差分管理など運用面の内容も交えて解説します。

本書が読者のレポート執筆の一助となれば幸いです。

*1 ラテック/ラテフ、英語圏ではレイテックとも読まれる

*2 テック/テフと読む、テックスは誤り